

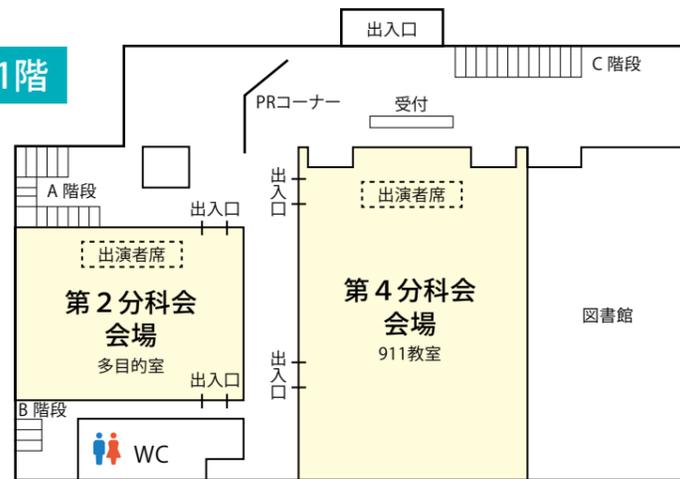


## 会場案内図(北海道文教大学)

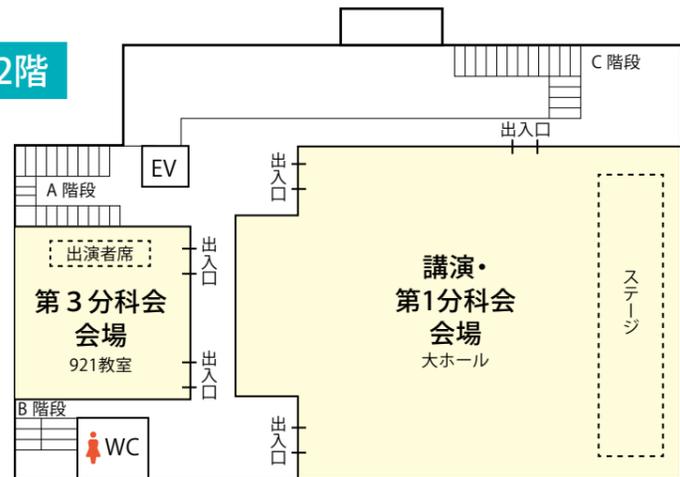
### 校舎配置図



### 記念講堂 1階



### 記念講堂 2階



※WC(男性用・女性用)は、記念講堂3階にもあります。



新時代を切り拓く  
まちづくりに向けて

# 恵庭市制50周年 記念フォーラム

【開催日】

2021.7.10<sub>[土]</sub>・11<sub>[日]</sub>

後日WEBサイトにおいて動画配信予定

【会場】

北海道文教大学 鶴岡記念講堂  
恵庭市黄金中央5丁目196番地の1 (JR恵庭駅東口から徒歩8分)  
※新型コロナウイルスの感染状況により、入場制限する場合があります。  
※状況によりご希望の分科会に参加できない場合があります。

## PROGRAM

7.10 [土] (開場 12:00)		7.11 [日] (開場 8:45)	
13:00~13:05	[ 主催者挨拶 ]	大ホール	9:30~11:00 [ 分科会発表 ]
	恵庭市長 <b>原田 裕</b>		大ホール
			[ 分科会の議論について ] 各分科会座長
13:05~13:50	[ 基調講演 ]	大ホール	11:00~11:10 [ 恵庭宣言 ]
	「競争の中での自立を楽しむ。これからの地方創生。」 ～サッポロビールがカイトクする未来～ サッポロホールディングス株式会社 顧問 / サッポロビール株式会社 前社長 <b>高島 英也氏</b>		大ホール
			～新時代を切り拓くまちづくりに向けて(提言)～ これからの人口減少やニューノーマル時代における様々な主体との連携 や結合等による共生社会についての記念フォーラムでの議論をこれからの まちづくりの提言として恵庭市から発信します。
13:55~14:40	[ 特別講演 ]	大ホール	記念フォーラムの概要は後日、 WEBサイトにおいて動画配信予定 <a href="https://eniwa50.jp/">https://eniwa50.jp/</a> 恵庭市制施行50周年テーマ曲 PV公開中 Grace Garden / Fuente
	「共生と多様性からのまちづくり」 福井県立大学 学長 / 東京農業大学 元学長 <b>進士 五十八氏</b>		
14:45~15:15	[ イン트로ダクション ]	大ホール	
	「分科会のテーマについて」 各分科会座長		
15:30~17:00	[ 分科会 ]	各会場	
	4つのテーマ毎にシンポジウム		



## ご挨拶

### 新時代を切り拓く まちづくりに向けて



恵庭市長 原田 裕

恵庭の本格的な開拓は、明治19年山口県岩国・和木地方からの集団入植が始まりです。その後、明治39年に恵庭村が誕生し、昭和26年に町制が施行され、昭和45年には市制施行となりました。当時の人口は約3万5千人でありましたが、幾多の先人の熱意やご努力、地域の発展に尽くされた方々の創意と工夫により、近年全国的に人口減少が進む中、一昨年9月末には7万人が暮らすまちへと発展してきました。

しかし、これから迎える本格的な人口減少や少子化に加えて、全世界を脅かした新型コロナウイルスの感染拡大などにより大きく変わる社会において、これまでの行政スタイルでは容易に対応できない地域の課題が山積しており、そのような中で多様な主体との連携や結合等により解決していくことが不可避な時代を迎えます。

恵庭市制施行50周年記念フォーラムでは、こうした自治体をめぐる社会システムの大きな変化に対応するため、多様な主体と積極的に連携協力する共生のまちづくりを考え、これからの地方都市像を展望する機会にするとともに、その成果を可能性に溢れる恵庭市から発信し、今後のまちづくりに生かそうとするものであります。

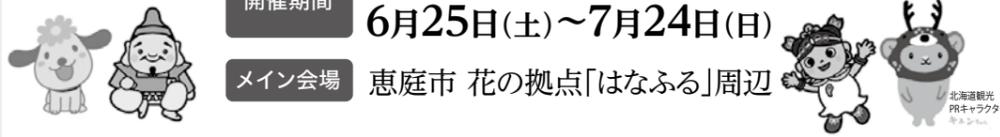
新時代を切り拓くまちづくりに向けては、様々な行政課題の共有と解決に向けた多くの皆様との協働が不可欠であり、本記念フォーラムが更なる地域発展と持続可能な地域社会に向けた取組に役立てられることを心から願い、ご挨拶いたします。



第39回全国都市緑化北海道フェア  
**ガーデンフェスタ北海道2022**

開催期間 2022年  
6月25日(土)～7月24日(日)

メイン会場 恵庭市 花の拠点「はなふる」周辺



## 基調講演

会場：(2階)大ホール

[演題]

### 「競争の中での自立を楽しむ。これからの地方創生。」 ～サッポロビールがカイトクする未来～

サッポロホールディングス株式会社 顧問  
／ サッポロビール株式会社 前社長

高島 英也 氏

東北大学農学部卒業後、サッポロビール株式会社に入社。ビール製造本部製造部担当部長、仙台工場長、取締役兼執行役員・経営戦略本部長を経て、2012年に常務執行役員・北海道本部長、2017年に代表取締役社長、2021年3月より現職。



## 特別講演

会場：(2階)大ホール

[演題]

### 「共生と多様性からのまちづくり」

福井県立大学 学長／東京農業大学 元学長  
進士 五十八 氏

東京農業大学卒業、農学博士、同大教授、農学部長等を経て学長、名誉教授。日本造園学会長、日本都市計画学会長、日本生活学会長、日本野外教育学会長、日本学術会議環境学委員長を歴任。2016年より現職。内閣みどりの学術賞、紫綬褒章。



[テーマ]

## 「交流による共生のまちづくり」

ポストコロナの観光戦略は重要なテーマです。テレワークなど働き方の変化などの新たな交流の動きをこれからの地域活性化にどう結びつけていくか、幅広い視点から探ります。

全体コーディネーター

座長

北海道観光振興機構 会長  
北海道大学 公共政策大学院 客員教授

小磯 修二 氏



京都大学法学部卒業後、北海道開発庁(現国土交通省)を経て、釧路公立大学教授・地域経済研究センター長・学長などを歴任。地域研究工房代表理事。2020年より現職。著書に「地方の論理」(岩波新書 2020年11月刊行)など。



帯広市長

米沢 則寿 氏

日本合同ファイナンス(現ジャフコグループ)に入社、1989年より6年間、ロンドンに駐在。その後、北海道ジャフコ取締役社長、ジャフコ取締役、常務取締役、ジャフココンサルティング取締役社長を歴任。2010年に帯広市長に就任、現在3期目。「フードバレーとかち」による十勝の価値創造を進める。



目白大学社会学部  
地域社会学科 教授

大西 律子 氏

目白大学社会学部地域社会学科(観光・まちづくりコース)教授、博士(工学)。東京工業大学大学院、民間シンクタンクを経て、現職。日本観光研究会副会長、地域力発掘サポートネット理事、観光庁・地方自治体等の各種委員を務める。



えこりん村(株)  
社長

庄司 開作 氏

岩手県盛岡市生まれ。1995年株式会社アレフ入社、2000年デリシャス株式会社取締役就任、2002年同社代表取締役就任(現任)、2009年えこりん村株式会社代表取締役就任(現任)、同年株式会社アレフ取締役就任、同社常務取締役就任(現任)。



[テーマ]

## 「多文化との共生のまちづくり」

近年北海道においても外国人労働者が増加し、普段の暮らしの中で外国人と接する機会が多くなりました。これからの多文化共生のまちづくりを探ります。

座長

北海道大学 公共政策大学院  
教授

山崎 幹根 氏



北海道大学法学部卒業後、同大学博士課程単位取得退学、博士(法学)。釧路公立大学助教授、連合王国スコットランド・スターリング大学客員教授を経て、2007年より現職。専門は政治学、行政学、地方自治論。著書に「国土開発の時代 戦後北海道をめぐる自治と統治」(東京大学出版会 2006年刊行)など。



東川町長

松岡 市郎 氏

1972年東川町に奉職。農林課長補佐、社会教育課長、税務課長を経て、2003年に退職。同年、東川町長に就任、現在5期目。日本初の公立日本語学校の開校や、写真文化首都「写真の町」など世界に開かれたプライムタウンのまちづくりを進める。



北海道文教大学  
学長

渡部 俊弘 氏

東京農業大学農学部卒業後、同大学院修了。北海道栄養短期大学助手・講師、東京農業大学生物産業学部食品科学科教授を歴任。東京農大バイオインダストリー社長などを経て2014年同大副学長。2018年より現職。



岐阜県可児市  
国際交流協会 事務局長

各務 眞弓 氏

岐阜県可児市(人口約10万人)は7千人を超える外国人が居住。2008年可児市国際交流協会NPO法人格を取得し理事、同年開設の可児市多文化共生センターの事務局専任。2010年より現職。文化庁日本語教育施策推進アドバイザーなどを務める。



[テーマ]

# 「花や緑との共生のまちづくり」

魅力あるまちづくりに向けて、自然環境の保全や、花や緑などの特色ある地域資源の創意工夫を生かした共生のまちづくりを探ります。

座長

北海道大学 大学院工学研究院  
教授

高野 伸栄 氏



北海道大学工学部卒業後、建設省(現国土交通省)を経て、1989年より北海道大学工学部在職、2015年より現職。2018年から2019年には同大学公共政策大学院長。専門は交通・都市地域計画、建設マネジメント。北海道都市計画審議会会長などを務める。著書に「公共政策学の将来 理論と実践の架橋をめざして」(共著、北海道大学出版会 2016年刊行)など。



ニセコ町長

片山 健也 氏

民間企業を経て1978年ニセコ町に奉職。企画環境課長、総務課参事、会計管理者を経て、2009年に退職。同年、ニセコ町長に就任、現在3期目。情報共有と住民参加による「住民自治」の実践と「持続する資源環境型経済」のまちづくりを進める。



北海道建設部  
まちづくり局長

宮下 忠昭 氏

北海道佐呂間町出身。北海学園大学工学部卒業後、1985年北海道庁入庁、2018年オホーツク総合振興局副局長(建設管理部担当)、2020年建設部建設政策局次長・北海道建設技術センター派遣、2021年4月から現職。



恵庭花のまちづくり  
推進会議 会長

内倉 真裕美 氏

1989年より恵庭市恵み野に在住。市内に8つの花の組織を立ち上げて花のまちづくりを展開するなど、「花のまち」の仕掛人の一人。2014年より恵み野商店街のガーデンプロデューサー、2015年に「緑の景観デザイン賞」最高賞の国土交通大臣賞を受賞。



[テーマ]

# 「子どもと地域の共生のまちづくり」

次代の社会を担う子どもが健やかに成長することができる環境を地域全体でどう支えていくのか。地域との多様な連携を図る共生のまちづくりを探ります。

座長

北海道大学 大学院農学研究院  
准教授

愛甲 哲也 氏



鹿児島県出身。北海道大学大学院環境科学研究科修了後、同大学院農学研究院助手を経て、2008年より現職。専門は造園学、特に公園の計画・管理。地域や市民との協働による自然公園、子どもの外遊び環境などについて研究。著書に「自然保護と利用のアンケート調査」(築地書館)など。



リズム学園 学園長

井内 聖 氏

北海学園大学経済学部卒業後、石狩管内公立中学校の教諭。2004年より市内の学校法人リズム学園に就職、恵庭幼稚園園長、恵庭市こすす保育園園長、はやきた子ども園園長、はやきた児童センター館長などを歴任。「子どもが育つまちをつくる」という考えのもと、学園独自の子育て支援事業を展開。2016年から現職。



森のようちえん  
「森のたね」代表

寺岡 祐子 氏

作家倉本聰の私塾「富良野塾」を卒業。2000年出産を機に母親業に専念。2007年富良野自然塾にて親子参加型の森のようちえんサークル「森のたね」活動開始。2016年拠点を森林公園に移し通年型の森のようちえん、2019年より認可外保育施設として運営。2017年5月より中富良野町議会議員、現在2期目。



恵庭市長

原田 裕 氏

1976年恵庭市役所に奉職。1986年家業(旅館)を継ぐため退職。1995年から北海道議会議員4期、2009年恵庭市長に就任、現在3期目。恵庭の魅力や可能性を追究し、ガーデンシティえにわの更なる進化のまちづくりを進める。

